

## エコール・ド・パリの時代

日本郵趣協会 絵画切手研究会

20世紀前半(1901-40年)の「芸術の都・パリ」は、多くの外国人にフランス人を交えた芸術家たちが、パリに集まり「カクテル(混合酒)」状態で芸術活動を行いました。

展示概要はパリの名所旧跡、歴史的背景、絵画・彫刻の芸術作品とし、展示品は誰もが見て楽しめるよう、マキシマムカードなど大型郵趣品を用いています。

## パリ市俯瞰図(航空写真)

パリ市前はセーヌ川に沿って広がる美しい都市。航空写真からは、パリの歴史的な建築や街並みを一望することができます。

### ①凱旋門からエッフェル塔

凱旋門は、ナポレオン1世が建設したパリのシンボルの一つ。シャンゼリゼ大通りの西端にあり、12本の道路が放射状に伸びている。エッフェル塔は、1889年のパリ万博のために建てられた鉄の塔。高さは約324mで、パリのランドマークとして有名で、トロカデロ広場からの眺めが最高。凱旋門からエッフェル塔までは、約3kmの距離がある。航空写真からは、シャンゼリゼ大通りやセーヌ川、ジャイコ宮などが見える。



パリ市内のランドマーク「凱旋門」から「エッフェル塔」  
美術絵はがき セーブル屋 1936/7/9



エッフェル塔  
エッフェル塔  
1889年制作

### ②セーヌ川橋

凱旋門は、ナポレオン1世が建設したパリのシンボルの一つ。シャンゼリゼ大通りの西端にあり、12本の道路が放射状に伸びている。エッフェル塔は、1889年のパリ万博のために建てられた鉄の塔。高さは約324mで、パリのランドマークとして有名で、トロカデロ広場からの眺めが最高。凱旋門からエッフェル塔までは、約3kmの距離がある。航空写真からは、シャンゼリゼ大通りやセーヌ川、ジャイコ宮などが見える。シュリー橋からイェナ橋までのおよそ8kmが世界遺産指定地域であり、中心であるシテ島とサン・ルイ島、および区内に架かる橋も含まれている。



近代都市に生まれ変わったパリ市街



パリ市内のセーヌ川に架かる「橋」  
郵便郵便はがき 1918年 エンパルネス製

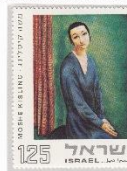
## 6. エコール・ド・パリ (パリ派)

大戦間のパリで愛し、生き、描いた多彩な画家たち

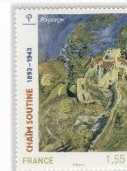
20世紀前半にパリで活動した外国人画家たちの総称のこと。彼らは、モンマルトルやモンパルナスに集まり、ボヘミアン的な生活を送っていた。エコール・ド・パリには、キュビズム、フォーヴィスム、抽象絵画など、様々な芸術運動に寄与する画家たちも含まれるが、ここでは画風が異なる画家だけに絞った。



モディリアーニ(1894-1920)  
ポール・ピサロの肖像  
1916年



キスリング(1859-1919)  
青いドレスの婦人  
1922年



スーティン(1894-1943)  
番村  
1922-23年



ヴァラドン(1865-1938)  
白いソックスの女  
1924年



コトリロ(1883-1955)  
パパン・アジール  
1910年



ローランサン(1883-1956)  
ターバンを巻いた女性  
1941年



フジタ(1886-1968)  
ブルーリ海岸  
ノートルダム大聖堂 1950年



シャガール(1897-1985)  
ダラッド王  
1911年  
シャガールのサイン付き



リベール(1886-1957)  
口画像  
1952年



バスキンズ(1887-1930)  
スタジオでの入浴、ネー  
ディヴィットの肖像  
1919年頃



佐田信三(1898-1928)  
デラスの広告  
1917年

## ユトリロ【1883パリ～1955ダックス】

パリの白壁風景を描き続けた酔っ払いの画家

アルコール中毒の治療の一つとして絵を鑑められ、ほとんど独学で厚塗りの絵画とモノトーンに近い色彩でパリの街角の古い家屋などを好んで描いた。

Alphonse Mucha

### 年表

- 1883 パリのモンマルトルに誕生
- 1891 スペイン画家ミゲル・ユトリロの子として認知
- 1901 デルコール依存症治療のため、英前に勤められ絵を描き始める
- 1903 母と一緒にコルトー街に移る
- 1907 白の顔彩(14)
- 1910 アルコール依存症治療のためサンノフ療養所へ40歳までの間に10回入院を繰り返す
- 1913 初の個展が大成功
- 1918 ヒディアリアニとモンパルナスで出会う
- 1924 禁酒症者(破産宣告)を受ける
- 1928 レジオン・ドヌール勲章受賞
- 1935 娼婦家の未亡人リユシー・ヴァリール66歳と結婚
- 1938 母のガラドンが死去
- 1955 家元の酒仏ダックスで新発曲こり死去

コタン的小路 1910年制作 油彩/厚紙 62×46cm  
パリ、ボンビドゥーセンター  
モナコ 1983/11/9発行 発行所:モナコ  
ユトリロ生誕100年記念

ユトリロの作品の中でも、最も私的味わいな富んだものの一つ。コタン小路の奥まる所、家々の戸口や窓戸は固くひっそりと閉ざされ、石段を上がり降りする2、3の人影も、動くというより、前方の街灯のようにぼんやりと影を落とすように、じっとそこに立ち尽くしているかのようだ。

色調も、これと知るような静けさと落ち着きを感じさせ、窓の上に見える緑の葉と黄色い花とが、絵画的な画面に植物的な端々しさを吹き込んでいる。

ランパン・アジール 1910年制作 油彩/厚紙 60×61cm

パリ、ボンビドゥーセンター  
フランス 1983/12/5発行  
発行所:パリ  
美術切手シリーズ

モンマルトルの丘の頂上付近は、景観保存地区の指定を受けており、この区域も19世紀末の姿を保っており、ユトリロらが進った「ランパン・アジール」道は【野球なつりや】を意味し、現在もジャンソン浴場として賑わっている。

